

ルネサンス・フランセーズ第7回栄誉賞授与式レポート

2025年3月25日、フランス大使公邸にて第7回栄誉賞授与式が開催されました。当協会会員始め、歴代受賞者、日仏交流に貢献されている方々約90名にご参列いただき、華やかな式典となりました。

今回は2024年11月にパリ本部の上級選定委員会で発表となった下記4名の受賞者にメダルと賞状が授与されました。(敬称略)

- *ルネサンス・フランセーズ大賞 メダイユ・ドール 岸 恵子
- *ルネサンス・フランセーズ大賞 メダイユ・ドール 竹本 忠雄
- *フランコフォニー賞 メダイユ・ドール 鹿島 茂
- *フランコフォニー賞 メダイユ・ドール 河井 留美



ルネサンス・フランセーズ日本代表部名誉会長でもあるフィリップ・セトン大使は開会の挨拶にて「受賞者お一人お一人が、映画、文化イベントの創作、文学の研究と普及、あるいは翻訳を通じて継承者 (passeur)の役割を見事に果たされている」と称賛され、日仏両国の豊かで多様な文化交流・知的交流、相互理解の促進への感謝のお言葉をいただきました。



日本代表部瀬藤澄彦会長の主催者挨拶に続き、パリ在住で日本代表部理事も務める中野真帆子氏のピアノ演奏をお聞きいただきました。折しも当日はクロード・ドビュッシーの命日で曲目はドビュッシーに因んだ作品が演奏されました。ドビュッシーと親交が深く今年没後100周年を迎えるサティのジムノペティ、若きドビュッシーがパリ音楽院の試験で弾いたショパンのピアノ協奏曲へ短調からの抜粋、晩年の傑作、プレリュードから2曲("亜麻色の髪の乙女"と"ミンストレル")、最後にド

ビュッシーの時代、フランス芸術文化に強い影響を与えたジャポニズムの象徴として"さくらさくら幻想曲"・・・名曲の美しい音色が会場の人々を魅了しました。



中島 厚志審査委員長の挨拶に続き、授与式が始まりました。受賞者ごとにドニ・ファダ世界会長からビデオ・メッセージで受賞理由が語られました。

まずはフランコフォニー賞 メダイユ・ドールを河井 留美氏へ。

ファダ世界会長より受賞理由：「河井留美様は、音楽という世界の中で音楽を通して音楽のために生きておられます。トランペット演奏者からスタートし、演劇、映画、そして何よりもコンサートなど、エンターテインメントを促進するあらゆる分野に携わっておられます。フランスでの音楽留学中に、あなたはフランスのアーティストたちと親交を深め、彼らを日本に紹介しました。歌手のクレマンティーヌは日本でその名を知られるようになり、カーラ・ブルーニのような他のアーティストもそうでした。さらにフランスで日本人アーティストのプロモーションに携わり最近では日仏交流 160 周年を記念して、若い世代を巻き込んだ日仏の文化イベントや交流の企画に大きな役割を果たしておられます。ルネサンス・フランセーズは、あなたの揺るぎない行動力と、日仏関係をより豊かなものにするという真摯な信念に対し、「フランコフォニー賞メダイユ・ドール (Médaille d'or des valeurs francophones)」を授与させていただきます」。

セトン大使よりメダルが授与され名誉会員のフランソワーズ・モレシャン氏より賞状が授与されました。



続いて同じくフランコフォニー賞 メダイユ・ドールを鹿島 茂氏へ。
セトン大使よりメダルが授与され渡辺 真美 栄誉賞選定委員より賞状が授与されました。

ファダ世界会長より受賞理由：「鹿島茂先生、本日はフランス文学、特に小説の黄金時代である 19 世紀を専門とする著名な教授であるあなたにメダルを授与できることを大変光栄に思います。あなたはこの時代の多くの作品を翻訳し分析して来られました。あなたの評論は注目に値するもので、多くの賞を受賞されています。私自身、この時代の文学の愛読者であり、好きな作家はスタンダールで、その中で特に『パルムの僧院』です。この時代の文学は、社会的・心理的分析と物語とを結びつけるフランスの精神を象徴しています。

フランス文学界に関するすべての出版物に加え、日仏会館を設立し道徳と経済の融合に尽力した渋沢栄一に関するあなたの重要な研究にも注目したいと思います。膨大かつ重要なテーマです。というのも、私たちの名誉会長であったガブリエル・ド・ブロイ公は、1980 年に設立された非常に歴史ある「フランス書誌愛好家協会」の会長であり、情熱的な書誌愛好家であったからです。あなたの本への情熱は、パリの本屋、特に「パッサージュ」と呼ばれる、古く、目立たず、長い間ひっそりと佇む路地にある本屋、特に古書店への造詣を深めることにつながりました。文学的、社会学的、経済学的、都市計画的な観点から、このテーマに関するあなたの徹底的な研究は大きな関心を集めています。

このような書店を日本の数カ所に設けられたのも素晴らしい取り組みですね。この「パッサージュ」という言葉は、まさにあなたのライフワークを定義するものです：日本文化とフランス文化の間に絶え間なく、深く、創造的な方法でパッサージュを開かれています。ルネサンス・フランセーズがあなたに「フランコフォニー賞メダイユ・ドール (Médaille d'or des valeurs francophones)」を授与させていただくことを嬉しく思います。」



続いてルネサンス・フランセーズ大賞 メダイユ・ドールを竹本 忠雄氏へ。
セトン大使よりメダルが授与され篠塚 隆 荣誉賞選定委員より賞状が授与されました。

ファダ世界会長より受賞理由：「竹本忠雄先生、侍の末裔であるあなたが文学を学ぶためにフランスを選んだことに深い敬意を表します。ソルボンヌ大学であなたはカミュの恩師であり親友でもあったジャン・グルニエに出会いました。1958年あなたはド・ゴール將軍の大臣を2度務めたルネ・キャピタン（当時日仏会館館長）の若いアシスタントになりました。この開放的で知的な豊饒の時代に、あなたはアンドレ・マルローと親しくなり、彼の翻訳者となりました。東洋と西洋の間で「考えることを学ぶ」ためには、これ以上の好機はありません。あなたはアンドレ・マルローの熊野詣に同行し、そこでマルローは作家として神秘的な体験をしました。又その事は『マルローと那智の滝』という美しい本に描かれています。

あなたは、美智子上皇后始め日本の作家たち、そしてフランスの知的エリートたちとも親しく、クローデル、マルロー、レヴィ＝ストロースといったフランスの偉大な知識人と日本人の精神を比較した著書『大和心の鏡像』は難しい仕事だったと思われませんが豊饒なものでした。

またあなたは三島由紀夫研究の専門家でもあり、彼の50回忌の行事を執り行いました。筑波大学名誉教授、コレージュ・ド・フランス客員教授、そして偉大な翻訳家であり、文化振興活動家であるあなたは、日本とフランスの伝統に基づく深い対話を促進し続けてきました。日本の武士道とフランスの騎士道に共通する価値観を評価したあなたの著書はそれを完璧に示しています。

ルネサンス・フランセーズ大賞メダイユ・ドール（(Médaille d'or de La Renaissance Française) を受賞されることになり、お祝い申し上げます。」



各受賞者からはそれぞれの思いを日本語とフランス語で語っていただきました。

ルネサンス・フランセーズ大賞 メダイユ・ドールを受賞された岸 恵子氏は体調不良のため式典にはご臨席いただけませんでした。会場の皆様には昨年フランスの TV で放映されたドキュメンタリー番組 *Une femme libre* の一場面をご覧いただきました。

岸氏は 2019 年にフランス文化普及賞（メダイユ・ドール）を受賞されていますので、2 度目の受賞者となりました。岸氏と親交の厚い当代表部顧問の田村道氏より岸氏からの御礼のメッセージを代読いただきました。



ファダ世界会長より受賞理由：「岸恵子様を知らない人はいないでしょう。あなたは 2019 年にフランス文化府普及賞メダイユ・ドール（Médaille d'or du Rayonnement culturel）を受賞されました。日本とフランスの両国で芸術家として、女性として活動されたあなたの類まれなるキャリアを称え、ここにルネサンス・フランセーズはあなたを最高の栄誉に推挙致します。あなたは若い頃から才能のすべてを映画に注ぎ込み、1950 年代以降の日本やフランスで、イヴ・シャンピやジャック・ドレイといった著名な監督たちと映画を撮り、シドニー・ポラックとも映画を撮られました。小津監督の『早春』や豊田四郎監督の『雪国』であなたを見た人は、決してあなたを忘れることはないでしょう。あなたのフィルモグラフィーは、その幅の広さ、多様性、質の高さ、厳格さにおいて印象的です。質の高い映画製作を推進す

るためあなたは製作会社を設立し、数々の傑作を世に送り出してきました。2011年にはフランス文化大臣からフランス芸術文化勲章コマンドールを授与されました。その後、あなたの創造的なダイナミズムは執筆へとあなたを導き、あなたは作家という新たなキャリアをスタートさせました。エッセイであれ小説であれ、あなたが発表する作品は、その優れた感性で読者の心に語りかけてきます。

ルネサンス・フランセーズは、あなたの世界への開かれた姿勢にとっても感動を覚えるとともに、感謝いたします。

ルネサンス・フランセーズは、あなたのオープンマインド、世界に対する飽くなき好奇心、そして常に示してきた自由な精神を高く評価しています。日本とフランスの緊密な関係を象徴する人物として、また、あらゆる分野を演じた女優として、本日、あなたがルネサンス・フランセーズ大賞メダイユ・ドール（Médaille d'or de La Renaissance Française）を受賞されることを大変嬉しく思います。」

栄誉賞授与式終了後、松浦晃一郎名誉会長の乾杯の辞で会場は祝賀ムードに包まれ、参加者の皆様にはしばし歓談を楽しんでいただきました。

今回の受賞の皆様のさらなるご活躍を祈念したいと思います。

盛会の下、第7回栄誉賞授与式は閉幕しました。

